

授業科目	政治史演習
演習題目	金融財政危機の政治史
担当教員	熊野直樹
授業の目的	<p>本演習の目的は、以下の4点です。</p> <p>① 政治史関係の学術論文の読み方を習得する。</p> <p>② 政治史を解釈する際に必要な用語や概念を十分に理解し把握する。</p> <p>③ 自分の考えを的確にかつ論理的に相手に伝えることができるようになる。</p> <p>④ ゼミ論文の執筆を通じて、調査能力と論文作成能力を育成・発展させる。</p> <p>本演習では、特に④のゼミ論文の作成に力を入れています。</p>
履修条件	金融財政危機の政治史というテーマについて、一年間議論していけるほどの関心と熱意がある方。
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢野康治「財務次官、モノ申す」『文藝春秋』第99巻第11号、2021年。 ・河村小百合『日本銀行 我が国に迫る危機』講談社現代新書、2023年。 ・川瀬泰史『シャハトーナチスドイツのテクノクラートの経済政策とその構想一』三恵社、2017年。 ・加藤國彦『1931年ドイツ金融恐慌』御茶の水書房、1996年。 ・日本銀行調査局『レンテンマルクの奇蹟』実業之日本社、1946年。 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊野直樹他著『政治史への問い／政治史からの問い』法律文化社、2009年。 ・湯本雅士『新・金融政策入門』岩波新書、2023年。
授業の計画・内容	<p>最近、日本の金利が日本銀行によって1%引き上げられました。これに対して、一部の金融の専門家から2年で日本銀行が債務超過に陥り、国債頼みの財政は破綻するのではないかという危惧が出されています。その際、第二次世界大戦後、財政破綻した日本でなされた預金封鎖や財産税の再来も危惧されています。そこで、本演習では現代日本の金融財政政策の現状について検討するとともに、実際に金融財政破綻したヴァイマル期ドイツの諸政策を検討します（政治史への問い）。その際、戦後直後に、日本銀行が金融財政危機の救済策としてヴァイマル期の金融財政政策を調査研究した報告書もじっくりと分析していきます。</p> <p>日本とドイツの政策を比較検討することによって、今後の日本の金融財政政策のゆくえ（財政破綻等の是非）について、皆さんと議論して検討していきます（政治史からの問い）。</p> <p>毎回、報告者1名とコメンテーター1名を定めて、報告者にはレジュメを作成し、発表してもらいます。報告者が提起した疑問点・論点に対して、コメンテーターに論評してもらいます。それらを中心に参加者全員が議論していきます。</p>
成績評価の方法	平素とゼミ論文による成績評価となります。そのためゼミ論文を作成してもらいます。後学期には2回ほどゼミ論文構想発表会を予定しています。学期末にはゼミ合宿（2022年度：天草）でゼミ論文合評会を行います（『2022年度熊野政治史演習ゼミ論文集』第22号参照）。なお、夏休みに3年生には、E.H.カーの『歴史とは何か』の書評を課します。